

令和 3 年度

# 地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・生涯学習担当



# 令和3年度実施 地域力応援基金助成事業 活動報告書 もくじ

地域力応援基金助成事業の概要 ..... 3

## スタートアップ助成

### ■新規

団体名	事業名	頁
Link×Link	世代を超えて皆が集まる場所を作る事業	4
にこにこサロンの会	にこにこサロンの会の集い	5
いきちか学童クラブ運営会	いきちか花壇プロジェクト	6
SDG s 五感で学ぶ会	SDG s 五感で学ぶ～サステナブル(持続可能)&エシカル(倫理的)な商品やサービスの選択を通じた“誰一人取り残さない”社会教育推進～	7
田園調布落語会	落語・講談・紙芝居・読みきかせ・映画観賞会・ワークショップなどの開催	8

### ■継続

団体名	事業名	頁
高齢者元気プロジェクトおおもり	高齢者が「元気で健康」で「希望と生きがい」をもち、安心してすごせる「おおもり」のまちづくり	9

## ステップアップ助成

### ■新規

団体名	事業名	頁
大田健康福寿会	「更に体力向上！！」ポールウォーク・グランドゴルフ・輪踊り	10
一般社団法人ヒューネットアカデミー	国勢調査 2020 から SDG s ～リサイクルを通じた地域貢献～	11
おとな&こども・ほっとネット	～子どもの自立を育てる保護者の子育て力のアップと交流&親睦活動の促進～	12
一般社団法人精神障害当事者会ポルケ	メンタルヘルス・精神障害理解啓発プロジェクト	13
特定非営利活動法人文化活動支援機構フォレスト	おおた俳句大会	14
きつねの学校	コロナ禍でも持続可能な、組織のクリエイティブ活動	15

大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会	大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会	16
----------------------	----------------------	----

■新規

団体名	事業名	頁
大森本場乾海苔問屋協同組合	令和3年度「郷土の歴史を繋ぐ海苔を味わう海苔の日」	17

■継続

団体名	事業名	頁
特定非営利活動法人男女共同参画おおた	LGBTを理解しながら、当事者の方々が安心して集える居場所づくり	18

チャレンジプラス助成

■新規

テーマ(1)『はねぴよん健康ポイントの普及啓発事業』

団体名	事業名	頁
大田区商店街連合会	Street Camping 事業	19

■継続

テーマ(1)『仕事と介護の両立支援コーディネート事業』

団体名	事業名	頁
一般社団法人大田区支援ネットワーク	介護と仕事の両立を支援するライフワークバランス事業	20

■継続

テーマ(2)『縁を結ぶひきこもり支援事業』

団体名	事業名	頁
おおた社会福祉士会	生きづらさ・ひきこもり支援の地域ネットワーク構築事業	21

地域力応援基金へのご寄付のお願い ..... 22

■地域力応援基金助成事業の概要

地域力応援基金助成事業は、平成 21 年度の制度創設以来、区民活動を支援するとともに、協働を推進する施策として実施してきました。これまでの事業の実績や地域活動の現状を踏まえた制度とするため、令和元年度の実施分から以下の通りの制度となりました。

各助成事業の概要

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	チャレンジ助成・チャレンジプラス助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	基盤となる事業を拡大・拡充させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大の応援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業を応援 このうち、区が示すテーマに即した事業であれば、申請額の上限を50万円増額とする。（チャレンジプラス助成）
要件	設立から概ね5年以内、かつこれまで助成事業を実施していない	設立から概ね3年以上	区内で活動実績があり、設立から概ね6年以上、かつ既存助成事業実施終了または新規助成制度における事業実施終了から2年以上経過
総額	新規200万円 （継続150万円）	新規280万円 （継続210万円）	新規1,000万円 （継続750万）
助成額	1事業につき20万円まで （継続は15万円まで）	1事業につき40万円まで （継続は30万円まで）	1事業につき200万円まで （継続は150万円まで） ただし、チャレンジプラス助成として申請した場合は、250万円まで （継続は187万円まで）

# 子育て世代をサポートし世代の輪を広げて

事業名 世代を超えて皆が集まる場所を作る事業

助成額 5万円

## ◆地域での課題

それぞれの世代の活動はある中、色々な世代が一緒に集まる場所は少ない。お年寄りとお赤ちゃん。赤ちゃんとお青年、お父さんと子供達、マタニティさんと思春期の子供達、など色々な世代、人が集まることで、色々な知恵をもらい笑顔が広がりより良い日常に繋がっていく

## ◆基金事業概要と達成した成果

コロナの影響で、事業を縮小して色々な世代ではなく子育て世代を集めた事業を今年度は開催しながらも、常時開催のアロマハンドトリートメントで参加者同士の手をケアしながらおしゃべりをしてアットホームな場を作ってきました



アロマハンドケアで手とこころのケア

その中でも助成金のおかげで講師を呼びイベントを3回開催することができ、参加者の皆さんからとても楽しくまた参加したいとの沢山の声を頂くことが出来ました

## ◆これからの取り組み

コロナ禍での活動で色々な世代を広げて集まることがなかなかできずにいるのですが、来年度は子育て世代を中心にサポートしながら少しずつ世代を超えた輪を広げていきたいと思っています



バルーンアートイベント。ママ達が夢中

団体名 Link×Link

会員数 15人

設立 2021年1月26日

団体の活動目的  
活動実績

産後ママ、子育て世代を中心に、色々な世代が集まる場を開催。現在は産後ママを中心に活動していますが、色々な世代が集まり交流を深め、様々な人間関係を築き助け合いながらより良い日常が過ごせるように、いつでもここに来て帰ってこれる『みんなのオアシス』となるように活動を続けたい

# 声かけて、交流を深め日々楽しく!!

事業名 にこにこサロンの会の集い

助成額 59,050 円

## ◆地域での課題

ひとり暮らしの高齢者・超高齢者の多い地域です。  
閉じこもりの高齢者、数少ない男性の方々にも声かけ参加することで交流を深め、安否確認の一端になるような活動に繋がりたい。

## ◆基金事業概要と達成した成果

にこにこサロンの会は本来、室内で折り紙・ぬり絵・将棋・オセロ・麻雀で楽しい時間を過ごしてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、中止になって2年目の令和3年、外での活動に目を向け、ポール de ウォークを始めました。

感染防止のガイドラインを守りながら声かけし、体験会を3ヶ月・月2回実施し、延55人参加。

10月～12月はチラシ掲示で募集し4回実施、延82人参加・男性は全体延9人・見守スタッフ延55人でした。

毎回コースを下見し変えてのポール de ウォークは普段通らない道端の植物・町並等々感動がいっぱい。終わった後は疲れも吹き飛び参加者は笑顔。

リハビリ目的での参加者もいたり心身ともに良い影響があり、フレイル予防・健康寿命の延伸にもつながります。

## ◆これからの取り組み

秋は40分位でしたが、1月は60分かかりました。ポール de ウォークの今後は準備・整理運動を含め往復60分を目標。下見時間がかかっても季節・安全確保を考えてコースを丁寧に検討します。

会の活動としては室内のぬり絵・将棋・麻雀等も再開し孤立した生活にならないように声かけして交流を深め、安否確認につながるよう取り組みます。

## コロナ禍の前



将棋  
オセロ  
風景

## ポール de ウォーキング

参加者募集

月2回

募集申込書



## 準備体操



## 下丸子公園 (梅がチノワ)



団体名 にこにこサロンの会

会員数 6人

設立 平成28年8月

団体の活動目的  
活動実績

ひとり暮らしの高齢者や高齢者所帯が多い地域で孤立した生活にならないよう、特に数少ない男性に声かけして交流を深め、安否確認につなげたい。  
令和元年での室内活動は 男性 延98名 女性 延60名の参加

# 公園花壇から始まる自発的な地域のつながり

事業名

いきちか花壇プロジェクト



助成額

10万5千円

## ◆地域での課題

- ・働き盛り世代や子どもたちにとって、地域に手軽に（会費や輪番なく）主体的に関われる仕組みがありません。SNSで遠くの人とつながれる一方で、地域間でつながり合える土壌が十分に育っていません。
- ・感染症拡大の影響で人々の移動が減り、一層孤立しやすい状況になっています。体験や学びの機会も大幅に減少しています。

## ◆基金事業概要と達成した成果

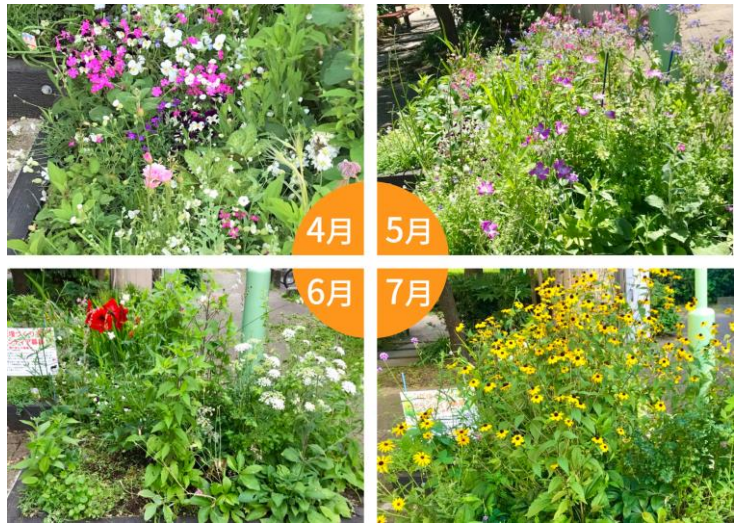
地域の人と新蒲田二丁目児童公園の花壇を一緒に使ながら、地域でゆるく自主的につながり合い関わり合える仕組みづくりを行っています。

- ・オープンチャットでのつながり形成：気軽に参加できるチャットで花壇や地域に関する相談等を行っていただきながら、ゆるやかなつながりを形成しています。
- ・花壇運営：花を通じて公園の雰囲気が明るくなり、利用者層が広がりました。利用者同士の会話が生まれ、ゴミの量も減りました。
- ・花壇イベント：日常的な手入れのほかに、種まき会（4月）、手入れ会（10月）、移植会（1月）を開催し、土や花に触れていただきました。
- ・花の栽培委託：地域の人に花のたねと土を渡し、公園花壇に植える花を自宅で育てていただきました。約40家庭が自主的に花育てを楽しみながら地域活動に関わりました。

## ◆これからの取り組み

より多様な背景の人に、より気軽に花壇に関われる仕組みをつくっていきます。

- ・花育て以外の方法でも花壇に関われるイベントを開催します（写真コンテスト等）。
- ・文字に頼らない発信、顔の見える発信として、動画配信にも取り組みます。



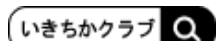
花壇は植え替えなしでも花が自然に変化していくようデザインしています。いつでも見に来てください（新蒲田二丁目児童公園）。現地訪問が難しい人のために SNS でも花壇の様子を発信しています。皆さまもぜひ SNS をフォローして、つながりを広める手助けをお願いします。



自発的な申込みのあった地域の方が、公園花壇に植える花を自宅で育てています。ほとんどの方が初めての種まき栽培で、オープンチャットでつながって、相談し合いながら育てています。

団体名

いきちか学童クラブ運営会



会員数

3人（運営）

設立

2019年4月

団体の活動目的  
活動実績

私たちは、「生きやすい社会」の形成を目指します。

—子どもも、大人も、みんなが今より少しでもラクに楽しく生きられる社会を目指して—

- ・2019年7月～2020年3月：学童保育事業を通じた子どもの生きる力の育成と地域のつながり作り
- ・2020年9月～：公園花壇を通じた地域のつながり作りと主体的な学びのきっかけ作り



## ～SDGs 持続可能な社会教育推進～

事業名

SDGs 五感で学ぶ～サステナブル(持続可能) & エシカル(倫理的)な商品やサービスの選択を通じた“誰一人取り残さない”社会教育推進～

助成額

19万4千円

### ◆地域での課題

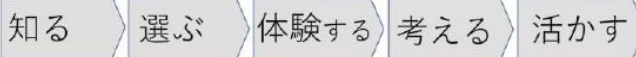
『SDGs』、18の目標達成に向け、義務教育で習っている小中学生に比して、大人は継続して学ぶ場が乏しく、行動に移しにくい状況です。まずは学びの場を作り、そして、具体的な行動に移す力を育てていくことが必要です。区民一人ひとりが我が事として捉え、環境に配慮した消費行動を取れるかが鍵であり、現状は持続可能な社会(地域)とはいえないことが課題です。

### 【SDGs 五感で学ぶ会】

初めの一步！みんなで一緒に認証マーク商品に触れて行動に移してみよう♪



第1回 SDGsに取り 組むってどうい うこと？	第2回 IAS 読んでみよう！	第3回 GOTS 読んでみよう！	第4回 Fairtrade 読んでみよう！	第5回 食品添加物 を知ろう！	第6回 ノック JASI(農業&福祉) 読んでみよう！
第7回 リサイクル マーク 読んでみよう！	第8回 RAマーク 読んでみよう！	第9回 JGAP 読んでみよう！	第10回 MSC/ASC 読んでみよう！	第11回 エコレー マーク 読んでみよう！	第12回 FSC 読んでみよう！



### ◆基金事業概要と達成した成果

- ・コロナ禍においても毎月、自主事業を実施することができ、全12回、約130名の参加がありました。
- ・当会の目標である“一人ひとりが環境に配慮した消費行動に変えていく”という成果が確認できました。
- ・参加者との会話やアンケートから“五感で感じ考え、行動につながった”と伺え知り得ました。
- ・毎月異なる企画をし、参加者が持ち回りでファシリテーターを担当したことで、人材の育成にも繋がりました。
- ・課題は感染症拡大防止のため、オンライン開催となったことで、参加人数が思うように伸びなかったことです。
- ・今後、参加人数を増やすため、SNS 発信方法の工夫やチラシの配布方法の改善などを行って参ります。

### ◆これからの取り組み

他団体とも連携して

- ・小学校で子どもを対象にした学習会の実施
- ・地域貢献、普及啓発の促進

にも力を入れていきます。

小学生と意見交換をすることで大人にとっても新たな気づきを得る機会となると考えています。この経験を活かし更にこの輪を広げていきます。



団体名

SDGs 五感で学ぶ会

会員数

20人

設立

2021

団体の活動目的  
活動実績

2020年からの10年間はSDGs目標達成に向けた『行動の10年』。我が事として捉えられよう、お互いが講師になって学びあい、そして、広める活動に取り組む会です。「誰ひとり取り残さない」という考えのもと、一般の区民に広く参加を呼びかけ、幅広い年代の人々が月に一度集まり、SDGsについての学びを深めています。今年度はコロナ禍でオンライン会議が中心となりましたが、参加者は多くの学びを得、数々の行動に移すことができました。また継続して企画をし、今後に向けた基礎固めをしている段階と捉えています。

# 令和3年度 活動報告書(田園調布落語会)

事業名

落語・講談・紙芝居・読み聞かせ・映画鑑賞会・ワークショップなどの開催

助成額

20万円

## ◆地域での課題

せせらぎ館の開館以来各地域からたくさんの方が訪れるようになりましたが、より地域の皆さまが活用できる機会があればと思いました。またコロナの影響もあり、親子・三世代で参加できるイベントが多くありません。町会との協働、ミドル～シニア世代の地域活動への参加も促したい。

## ◆基金事業概要と達成した成果

田園調布せせらぎ館において

●落語会の開催（地元の社会人落語家、プロ、アマチュアの競演）

→多い時には70名もの地元のお客様が訪れました。受付・会場係は自治会のボランティアも参加。子どもや障がいのある方は無料で、どのような方も気軽に訪れ交流できる機会を提供しました。

●子どもへの落語ワークショップの開催

子どもと親と一緒に参加できるイベントを開催しました。

●大人への落語ワークショップの開催

●小学校で落語の授業

## ◆これからの取り組み

今後はさらに多くの皆さまに参加いただけるようなイベントを企画していきたいです。

またシニアステーションや、区内の小中学校での落語会や落語ワークショップの開催も企画しています。

せせらぎ館では、落語教室や、落語でも使えるゆかた・着物の譲渡・交換会も企画し、さらに地域の町会・団体との協働をはかります。



団体名

田園調布落語会

会員数

15人

設立

令和3年

団体の活動目的  
活動実績

落語会、落語ワークショップの開催

# 大森で世代をこえた交流を！

事業名

高齢者が「元気で健康」で「希望と生きがい」をもち、安心してすごせる「おおもり」のまちづくり

助成額

15万円

## ◆地域での課題

地域で生活する高齢者の課題には

- ① 「元気で健康」で毎日を暮らせること。
- ② 「希望と生きがい」がもてるまちづくり
- ③ いつでも集まれる「居場所」があること。
- ④ 生活をするうえで「なんでも相談できる」仲間がいること。などがあります。



## ◆基金事業概要と達成した成果

2021年度の1年間を通しての成果

- ① イベントや会議の回数は、年間178回。
- ② そこに参加した高齢者の数は、年間を通して2,800名を超えました。
- ③ 10名ほどで始まった会も、1年で会員が50名を超える大きな「会」になりました。
- ④ 応援してくれる団体、高齢者問題に対応できる専門家も集まり、生活をするうえで生じる「困りごと」の相談にも乗れるようになりました。
- ⑤ 9月から「こども食堂」も始まりました。

### 毎月の第2土曜日のポールウォーキング

大森西のプラムハイツ集会室に集合後、ポールウォーキングで「ふるさとの浜辺公園」まで往復。毎週木曜日朝10時から「まち歩き」を実施しています。



## ◆これからの取り組み

- ① いままで実施してきた「取り組み」をさらに発展させていきます。
- ② 一人ひとりの結びつきを「やさしさと温かさ」をベースに、さらに強化していきます。
- ③ 高齢者が喜べる取り組みと進め方を、さらに深く研究して、「大森のまちに住んでいてよかった」と思える「まちづくり」をさらに前進させていきます。

### 12月30日には「浅草七福神めぐり」も！

当日は「厚生労働省」のビデオ班も同行。7カ所の神社仏閣を参拝。参加した20名で5時間、10キロの道のりを歩きとおしました。おいしい「年越しそば」も老舗のお蕎麦屋さんで。朝9時30分京急平和島駅集合、午後4時に帰ってきました。

団体名

高齢者元気プロジェクトおおもり

会員数

50人

設立

2019年12月

団体の活動目的  
活動実績

高齢者が元気でひかり輝くことのできる「大森のまちづくり」の実現をめざしています。「太極拳教室とコーヒーの会」、「ポールウォーキング教室とコーヒーの会」「まち歩き」の会」「健康麻雀教室」などに加え、「こども&シニアもりもり食堂」や「名所めぐり」なども始まりました。

# 「身体はシッカリ・言葉はハッキリ・顔はニコリ」

事業名

「更に体力向上！！」ポールウォーク・グラウンドゴルフ・輪踊り

助成額

38万円

## ◆地域での課題

「こども SOS」の看板を開設時より門柱に付けております。そのご縁で子育て世代からシニア世代まで出入りしております。

いつ、いかなる時も、知り合い・家族・仲間に関われながら「安心・あったか・明るく・元気に！！」活動することを目標に行動しております。70%の達成ですと一頑張りです。

## ◆基金事業概要と達成した成果

2021年も予定通りに実施しました。今年も実行いたします。

毎週月曜日と火曜日	午前8時00分から 本羽田公園 運動とグラウンドゴルフを実施(毎回30名の参加)
第2水曜日	午前10時00分から 穴守稲荷神社・海老取川公園 史蹟速歩会を実施(毎回20名の参加)
第3日曜日	午前10時00分から 萩中集会所 ニコニコ講座・運動を実施(毎回25名の参加)
第4月曜日	午前10時00分から 萩中集会所 健康福寿講座・運動を実施(毎回40名の参加)
隔月	健康延伸宿泊講座を実施(毎回35名の参加)

各事業とも80%の達成率です。更に努力いたします。

## ◆これからの取り組み

- ・「ゆりかご」から「虹の橋」を渡るまでの全世代の高揚を目標に努力、研鑽、勉強をいたします。
- ・全会員が自主的に「一コマ講師」を担当できるよう研究いたします。
- ・全会員が「施し」「感謝」をもって地域に社会に貢献いたします。
- ・写経、書道、短歌の集会を開始いたします。

団体名

大田健康福寿会

会員数

50人

設立

平成29年1月1日

団体の活動目的  
活動実績

当会は全世代の①融和②努力③勉強④進展を目的に活動をしています。

グラウンドゴルフ会 96回、史蹟速歩会・ランチ会 12回、ニコニコ講座 12回、健康福寿会講座 12回、健康延伸宿泊講座6回

# SDGsだれひとり取り残さない地域社会を作ろう!

事業名

国勢調査 2020 から SDGs  
～リサイクルを通じた地域貢献～

助成額 40万円

## ◆地域での課題

SDGsは小学校でも学びますが大人は英語でなじみがない人が大半です。身近なところでSDGsを理解できるように、国勢調査後に廃棄が予定されたけれど環境に配慮して有効利用の途が開けた物品をリサイクルする活動を始めました。その一環で回覧板ケースの製品化に自治会と共にとりこんでいます。

## ◆基金事業概要と達成した成果

国勢調査用品のリサイクル・リユースのアイデアを出し合い、地域の就労継続支援B型事業所などに協力をえて、自治会が必要としている回覧板をまわすときに雨風を防ぐケースを開発しました。令和3年度には大田区内の9自治会2市民団体から合計900個の注文を受けました。そして、区内の2事業所を含む10事業所に縫製の仕事をしました。コロナ禍で活動が停滞していた福祉作業所にバインダーのシール貼りの軽作業も発注しました。手提げ袋のリメイク教室を開催し、乳幼児と親子で参加できる催しもサポートしました。リサイクル活動のなかで子ども食堂のみなさんとも繋がり、SDGsを身近な課題としてともに考える機会を提供しました。

## ◆これからの取り組み

大田区から譲渡された手提げ袋がまだたくさんあります。前年までは、大田区内の自治会だけに宣伝をしてきましたが、今年からは広く全国に活動を知らせていきます。そのために、全国の就労継続支援B型事業所に呼びかけつつ、オンラインで個人を対象にした販売をはじめます。その中で、一緒に活動してくれる仲間をひとりでも多くつくることを目標にしています。再利用できる資源を捨てることなく、持続可能な社会を作っていくことが、SDGsです。

## 国勢調査 2020 から SDGs

～リサイクルを通じた地域貢献～



## リメイク回覧板ケース・リユースバインダー



団体名 一般社団法人 ヒューネットアカデミー

会員数 5人

設立 2017年9月7日（法人登録）

団体の活動目的  
活動実績

個人の多様性を組織や地域社会で活かすために、基本的な人権の尊重を基本とし、個人の発想や創意工夫を社会的活動の創造へとむすびつけることを目的としています。これまで、UD理念を大切に、車いすユーザーが自由に移動できる街や建物の整備の重要性を伝えてきました。

# おとな&こども・ほっとネット

事業名

～子どもの自立を育てる保護者の子育て力のアップと交流&親睦活動の促進～

助成額

40万円

## ◆地域での課題への取り組み

- ①希薄になってきている家族のきずなを強める活動
- ②地域のなかで孤立しがちな子育て世代の交流の場づくり
- ③父親、母親の活躍の場づくり
- ④多世代間の交流の場づくり
- ⑤多文化交流の場づくり
- ⑥遊びを通しての子どものダイナミックな育ち



## ◆基金事業概要と達成した成果

- ① 4月25日 子どもの集団遊びと実技研修～遊びのなかで子どもはゆたかに育つ～ 外部団体から講師を依頼し子どもの自主性・主体性を育むための講座開催（参加20名）
- ② 8月7・8日 館山遊びの会～親子時自然体験の会～ 親子で自然体験を通じ家族の触れ合い、他地域団体や参加者同士のつながり形成（参加者25名）
- ③ 10月31日 子どもの権利の視点と子育てのポイント講座 新保庄三先生を迎え子どもの権利条約を中心とした特別講座を開催。（参加者25名）
- ④ 1月16日 ファミリーコンサート ラトレによるクラシックコンサートを通じ本物の音楽に触れ心を豊かに（参加者200名）
- ⑤ 偶数月（5回） ほっとネット Works 親子でものづくり体験と他団体との連携（参加者60名）

ほっとネットファミリーコンサート「はるがきたよ」  
午前午後の2回公演に合計200名の参加者  
子どもたちの好きな曲に会場が虹になったよ！



ほっとネット Works 全5回計66名  
偶数月には文化の森でものづくり体験。親子一緒にハンドメイドを行い会話や触れ合う機会が増えました。

## ◆これからの取り組み

年間を通じて、親子の遊びと繋がりをつくり、参加者同士の交流を軸に活動基盤ができています。運営と一緒に携わる家族と参加者が遊びや体験を通じ「世界は楽しみにみちあふれている」ことを体感し、大田区全域で幅広く活動を行い、「一番面白いね」と様々な年代の方が関わってくれるような団体をめざします。



2021 新しい事業も、2020 継続事業も！  
ステップアップ事業で新しい事業、大田区を飛び出し館山自然体験や人権・遊び講座を開催。スタートアップ助成からの事業もしっかり継続して開催しました！

団体名

おとな&こども・ほっとネット <https://www.facebook.com/otonakodomohotnet>

会員数

10人

設立

平成30年3月

団体の活動目的  
活動実績

子育て家族のしあわせと家族みんなが輝ける大田区をつくることを目的に結成



# 多様性あるおおたの地域共生社会づくりに向けて

事業名 メンタルヘルス・精神障害理解啓発プロジェクト

助成額 40万円

## ◆地域での課題

精神障害は偏見や差別の問題が今もなおあります。地域共生社会づくりに向けて、障害当事者からの積極的な情報発信や交流の機会が求められます。また、メンタルヘルスはあらゆる人々にとって大切な価値ともいわれています。精神疾患の経験を活かした学びや関心喚起の取り組みが期待されています。

## ◆基金事業概要と達成した成果

精神障害のある人の視点を通じて、あらゆる人々にとって大切な考え方であるメンタルヘルスと精神障害に係る理解啓発を活発に行うことができました。

多様性ある地域共生社会づくりに向けて地域に根差した事業を展開することができました。

新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、2回のオンラインイベントと1回の写真展企画を行いました。大変厳しい状況ではありましたが、目標の250人を上回るべ262人の参加をいただきました。

事業実施に際して、21の関係団体・機関から名義後援をいただきました。

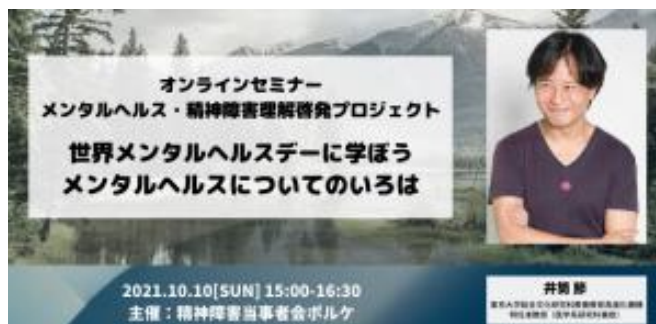
## ◆これからの取り組み

全国的にも稀有なメンタルヘルスと精神障害理解という両輪による啓発プロジェクトを障害者団体として行うことができました。今後は、プロジェクトを通じた知見を活かした体系的な啓発資料の制作を今後進めてまいります。

新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、対面でのワークショップ企画などを充実していきたいと思えます。

### ■第1回 オンラインセミナー

10.10 世界メンタルヘルスデーに学ぼう メンタルヘルスについてのいろは（講師：井筒節氏 東京大学）



### ■第2回 オンラインセミナー

11.14 世界の精神障害者運動のこれまでと現在地

（講師：伊東香純氏 中央大学、桐原尚之氏 立命館大学）



### ■第3回企画 ポルケ写真展2022 IN おおた (2/26~27)

講師：柴田大輔氏（フォトジャーナリスト）



団体名 一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

会員数 210人(応援会員含む)

設立 2016年

## 団体の活動目的 活動実績

東京都内を拠点に活動する精神障害者によって運営をされる障害者団体です。当事者交流お話をはじめ精神障害のある人の場づくりの活動や権利擁護活動に取り組んでいます。近年では、多方面での活動を評価いただき、公益社団法人こころのバリアフリー研究会より、こころのバリアフリー賞を受賞いたしました。

# 児童から高齢者までつながる文化交流！

事業名 おおた俳句大会

助成額

40万円

## ◆地域での課題

課題は「地域内から地域間、そして世代間など広く交流しやすい環境を創出する」こと。

俳句は児童から高齢者まで楽しめる日本古来の文芸です。楽しむための入口は広く易しく、そして奥は深く、正解のない自由な文芸です。この俳句を通し、俳句を話題として、誰もが交流できる環境づくりを目指します。例えば、公園でおじいさんと子供が同じ風景を見ながら、こういう風に見えるねとか感じるねなどと話せるような、そんな景色・地域づくりの一助となることです。

## ◆基金事業概要と達成した成果

区民を中心に広く句を募集し、応募された句の中より、区内在住の選者（俳人）によって入選句を選び、「おおた俳句大会」で発表します。

今回、句は約 2340 句集まりました。俳句を楽しんでいる方々からは、「俳句をつくる意欲につながる」など、小中学校で俳句を教えている先生方からは「授業でつくった俳句が社会で評価され、生徒の関心や興味がわく」などととも「継続を望む」多くの声が寄せられました。

まちづくり関連の団体や地域イベントとの協働などは、コロナ禍の影響で実現までは至りませんでした。その検討の継続ができることとなりました。また、小中学校とは授業と連携した開催の検討も行われるようになりました。

## ◆これからの取り組み

- ・より多くの区民にこの事業を周知すること
- ・俳句を通して町や自然をみて、歴史や文化に触れるような活動をこの事業と連携させること
- ・他団体や地域との連携・協働イベントを開催すること。
- ・小中学校・高校の授業との連携を図ること。 など



団体名	特定非営利活動法人文化活動支援機構フォレスト		
会員数	16人	設立	2005年7月
団体の活動目的 活動実績	広く一般市民を対象として、市民の主体的な文化活動を推進し、支援することを目的に活動しています。講座・講演会の開催から、イベントの企画・開催、市民交流、文化活動の普及・啓発など幅広く事業を行っています。 「緑のカーテン講習会」「命の森プロジェクト」「フォレスト落語会」「そば打ち講習会」等		



# アートで発散!!フリー-campus に自分の想いを

事業名 コロナ禍でも持続可能な、組織のクリエイティブ活動

助成額 39万円

## ◆地域での課題

子どもたちへの支援には、学習だけではなくアート支援も支援の手段として認知され始めています。大田区でも各地区で様々な支援が実施されるなか、羽田地区にはアートの支援が乏しいと感じていました。学習という単一の支援方法に留まらず、アートに触れる大切さを、共有事項として持てるよう望んでいます。

## 【ウォールアートペイント企画】

羽田小学校（北門前）にて



## ◆基金事業概要と達成した成果

保護者の不安も募る中で、その影響は子どもたちにも大きく影響を与えていました。だからこそ、新しいチャレンジをこの基金を利用して実施する意義を持ったのです。私たち団体は、日頃より子どもたちへ学習支援して活動している団体があります。その一貫した延長線で、アートの側面からアプローチする屋外活動に着目し実施することとなりました。その実施した成果には、子どもたちの笑顔が絶えずあったことが達成としてすぐに挙げられます。また、大きなキャンパスに向けて発散していた子どもたちの様子が、様々な自粛を物語っていたと感じる瞬間でした。他団体や近隣の教育機関への呼びかけにより、新しい関係性の構築にも繋がり、大変良い機会を頂けたことも貴重な成果物でした。



## ◆これからの取り組み

子どもたちがコロナ禍で様々な活動自粛を強要される中、これ以上のストレスを与え続けることも懸念を持っています。単純な自粛を要請していくのではなく、新しい開催方法への取り組みを視野に入れながら、恐れずに挑戦していくことを考えています。参加者への満足度や、新しいチャレンジに取り組めた点だけに充足せず、横への繋がり、すなわち他団体との協力と共同、協働、そして支援者の達成感も共有できる環境づくりに意識して取り組むことが大切だと考えています。



団体名 きつねの学校（任意団体）

会員数 10人

設立 2011年1月1日

## 団体の活動目的 活動実績

子どもたちやその保護者に対し、学習支援やアートなどを通じて、子どもの学び場・遊び場・居場所の提供及び運営を行なう団体です。支援活動の場における、子どもの居場所づくりという理念を基本にコミュニケーションの場や学習機会を提供することで、共に学び育っていく場を創造しています。子どもの健全育成や、まちづくりの推進、国際交流など社会教育の増進活動を行うことで、地域の子どもの保護者たちが活力に溢れ元気に生活できるよう様々な場面に貢献することを目的としています。

# 『子や孫に引き継ぎたい災害に強いまちづくり』を地区に広める

事業名 大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会

助成額 11万円

## ◆地域での課題

首都直下地震で想定されるマグニチュード7程度の地震の30年以内の発生確率は、70%程度といわれており、地震災害に強いまちづくりを進めることが必要です。そのためには地域に住んでいる人の防災意識を高めていくことが必要です。



## ◆基金事業概要と達成した成果

防災まちづくりの会のこれまでの活動を実績資料として、活動の冊子および、画面に映しながら説明できるスライド資料をとりまとめました。

今年度は、地区内の町会が開催する防災訓練に参加し、作成したスライドを用いて、会の活動内容を報告し、地域の方に、防災まちづくりに興味関心を持っていただく機会となりました。

※町会防災訓練に参加し会の活動について報告をしました



## ◆これからの取り組み

今年度作成した会の活動報告資料を活用しながら、地区内に活動をPRするとともに同じ仲間として活動を進められるよう会の活動を広げていきたいと考えています。

また、私たちと同じように防災まちづくりに取り組んでいる地域等からの懇談会や視察会の依頼に対し、今回作成した資料を活用しながら、活動を広げていきます。



## ●地区内の防災訓練への参加



※スライドではこれまでの会の取組み内容等を取りまとめています

団体名 大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会

会員数 39人 設立 平成11年 7月

## 団体の活動目的・活動実績

大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会は、「自らのまちは自ら守る」の考えのもと、その実現に向けて自らがその活動内容を考え、地域一体となって取り組むこと等、地域による主体的な防災まちづくり活動を進め、「子や孫に引き継ぎたい災害に強いまち」の実現をめざすこととしています。これまでまちづくりのルールについて会で検討し区へ提案、地区計画に結び付けています。現在も運営委員会を中心に、全体会を年2回程度開催しながら活動を続けています。

# 「郷土の歴史を繋ぐ 海苔を味わう海苔の日」

事業名 令和3年度「郷土の歴史を繋ぐ海苔を味わう海苔の日」 助成額 135万円

東京都大田区は日本屈指の海苔問屋集積地域であり、かつての「大森」は、海苔養殖発祥の地として良質で美味しい海苔の採れる、質、量ともに日本一の産地であり当時の東京府より日本で唯一「本場」の名称を付けることが許された「海苔の聖地」でもあります。確かな歴史や伝統がありながら大田区大森がかつて海苔養殖を行っていたことや、今でも海苔産業の拠点として、問屋毎に全国の海苔を買い付け、全国の卸先に流通していることの認知度が低下している実情があります。これらの課題を踏まえ、大田区内の小中学校の児童・生徒を対象に【海苔の日】に合わせ、昭和35年より以前は一大産地でもあった海苔養殖業の歴史を後世に繋ぐ事業を計画するとともに、海の野菜とも言われる海苔の栄養素に着目し、新たに海苔を題材とした食育を推進いたします。

## ◆基金事業概要と達成した成果

基金事業である郷土の歴史を繋ぐ事業として2月4日・7日に実施予定の概要は次の通り。2月6日の「海苔の日」に合わせ、2月7日に大田区立の小中学校の生徒へ大森海苔のリーフレット及び海苔を配布し、食育及び歴史のPR。当初目標としていた大田区内小中学校全生徒の参加が達成でき、教職員含め延べ**45,111名**となりました。海苔の食育スクールについては新型コロナウイルス感染の急拡大により、まん延防止等重点措置が適用されております状況を受け、大田区教育委員会との協議の結果、健康と安全を考慮し本年は中止といたしました。



← イベント当時の海苔を使用した給食。

大森海苔まるわかり BOOK 概要 ↓

## ◆これからの取り組み

- ・2年目以降も大森海苔のリーフレット及び海苔の配布は継続を行い、食育及び歴史のPR活動を行います。
- ・コロナ禍が終息の折には食育スクールを開催する。
- ・全校に「郷土の歴史」の授業を行うため、授業を動画に納め配信を行うようにする。

団体名 大森本場乾海苔問屋協同組合  
 会員数 48企業 設立 昭和27年2月

団体の活動目的 組合員の取り扱う海苔（関連資材を含む）の共同購買、共同販売、共同保管、共同運送。組合員に対する事業資金の貸付け及び組合員の為にする借入。組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上又は組合事業に関する知識の普及を図る為の教育及び情報提供。組合員の福利厚生に関する事業。上記事業に附帯する事業。

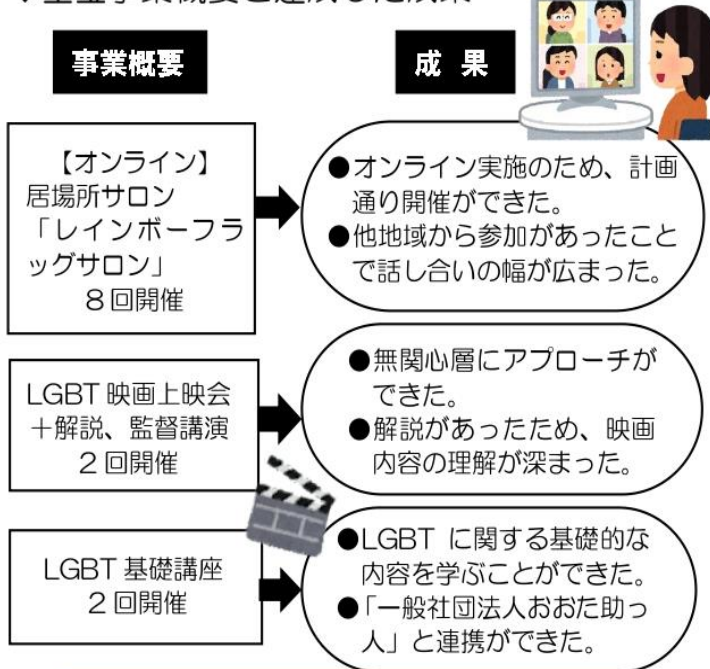
# LGBT当事者の居場所サロン、映画上映会等の開催

事業名	LGBTを理解しながら、当事者の方々が安心して集える居場所づくり	助成額	68万円
-----	----------------------------------	-----	------

## ◆地域での課題

私たちが暮らしている地域には異性愛や体の性と性自認が一致している人（シスジェンダー）だけではなく、同性愛・トランスジェンダー等さまざまなセクシュアリティの方がいます。性のあり方はグラデーションです。そのことを理解できていないと、無意識にLGBT当事者を差別してしまい、LGBT当事者は生きづらさを抱えることになります。当事者が安心して集える場と性の多様性を理解することが必要と考えます。

## ◆基金事業概要と達成した成果



7/8 実施のチラシ「カラコエの花」(右)



12/4 実施のチラシ「ぼくが性別『ゼロ』に戻る時」

全 12 回実施、のべ 206 人の方が参加

## ◆これからの取り組み



12/4 映画上映会と監督の講演を開催。監督(前列左から2番目)と主人公の母(前列右から2番目)。

団体名	特定非営利活動法人 男女共同参画おおた		
会員数	会員 78 人+1 団体	設立	2003 年 12 月 4 日
団体の活動目的 活動実績	<活動の目的> すべての人々に対して、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を図る活動に関する事業を行い、誰もがその人らしく伸びやかに生きられる社会づくりに寄与する。 <活動実績> ●2004 年～大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」の指定管理者 ●2016 年～主に女性向け創業支援施設「パシオン TOKYO」を運営 ●2021 年～足立区男女参画プラザ講座委託事業者 ●そのほか団体活動の目的を達成するための講座の企画・運営、団体支援、調査研究を実施		

# 商店街通りを活用した子どもの遊び場づくり

事業名 StreetCamping 事業

助成額 48万円

## ◆地域での課題

- 都心の生活において、子どもが自由に安心して遊べる公園以外の屋外空間づくりを通して、子ども達の社会性や運動能力の向上を図る。
- 地域住民が安心して子育てができる環境の整備を図る。

## ◆基金事業概要と達成した成果

子育て世帯、商店街の来街者を対象として下記概要により遊び場の運営を実施した。

- ① 商店街通りを借るようした子どもの遊び場の設置
- ② 遊び場に必要の備品、消耗品の購入
- ③ 遊び場を運営する地域主体の調整、遊び場の運営
- ④ 各遊び場のはねびょん健康ポイントのスタンプスポット設定、当該ポイントの周知チラシの配布
- ⑤ HP、SNS 等での告知活動

【令和4年1月22日時点の成果】

- 開催実績：鶴の木駅（約300人）、雑色駅（2,000人）
- 当該ポイントの周知チラシの配布実績：150枚

## ◆これからの取り組み

広報を強化して「StreetCamping」の認知向上と、運営主体、開催場所の追加調整を予定している。

- ① HP 上に専用ページ、問い合わせフォームの設置
- ② 「StreetCamping」運営に興味のある地域団体と商店街とのマッチング促進
- ③ 保護者、高齢者も過ごしやすい会場づくりのための備品購入



団体名 大田区商店街連合会

会員数 約7,000

設立 昭和26年8月

団体の活動目的  
活動実績

区内の役 140 商店街の活性化に資する運営支援、対外向けの商店街情報配信、各種キャンペーンの企画運営、産業経済部を中心とした委託業務の推進等を行う。区内を面展開している商店街をフィールドにして、商店街に親和性のある商・観光振興、福祉や健康増進等の多岐にわたる事業を展開している。

# 介護離職を防ぐ！仕事と介護の両立支援事業

事業名 介護と仕事の両立を支援するライフワークバランス事業 助成額 87万円

## ◆地域での課題

世界に類を見ない高齢化が進む日本では、「介護離職」が社会問題となっています。「介護離職」は、企業にとって貴重な労働力を失うのはもちろん、本人にとっても生活困窮に陥ったり、精神的・肉体的が負担も増すなどの影響を及ぼします。従業員9名以下の企業が80%を超えるここ大田区でも「介護離職」を食い止めることが急務となっています。

## ◆基金事業概要と達成した成果

- 1 大田区企業経営者・人事担当者向けセミナーの実施  
仕事と介護の両立の重要性の普及と具体策に関するセミナーを4回実施した。
- 2 大田区内企業様に対する個別支援  
従業員の方の仕事と介護の両立相談について、5社の支援を実施した。
- 3 ケアマネジャー向け普及啓発チラシの作成  
ケアマネジャーに知っていただきたい企業における仕事と介護の両立支援制度と、個別相談窓口についてのチラシを作成し配布した。

## ◆これからの取り組み

令和4年度以降は、大田区介護保険課と連携を取りながら本事業を継続していく。

具体的には、

- ・区民・企業向け個別相談会の実施 年12回
- ・区内企業（個別）セミナーの実施 年6回
- ・区内事業者（全体）向けセミナーの実施年2回となっている。

## ◆区内企業経営者向けセミナー（東商）



令和3年11月2日に東京商工会議所大田支部青年部に参加の区内企業経営者25名に対して「仕事と介護の両立支援セミナー」を実施した。

東京商工会議所との連携により、区内企業経営者に向けて効果的に事業の普及が行えた。

## ◆大森工場協会会報での啓発

大森工場協会会報（令和3年8月1日号）にて、見開き2面を使って「仕事と介護の両立支援」について広報していただいた。



団体名 一般社団法人大田区支援ネットワーク

会員数 18人

設立

2013年8月

団体の活動目的  
活動実績

当法人は、大田区を中心とした地域に存在する様々な課題を解決し、誰もが心豊かに住まえるまちづくりと地域福祉に寄与すると共に、それを発信し広めていくことを目的として活動しています。これまで住民主体型・訪問支援サービス「絆サービス」のボランティアマッチングを行ったり、大田区社会福祉協議会と連携してボランティア養成の支援などを行ったりしています。

## 当事者・経験者と応援者をつなぐ「新たなつながり・支援のカタチ」

事業名 生きづらさ・ひきこもり支援の地域ネットワーク構築事業

助成額 161万円

### ◆地域での課題

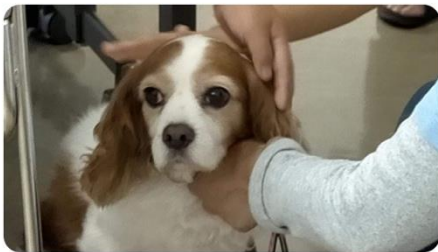
ひきこもり状態の方は、「ひきこもりは良くないこと」のような周囲の持つ偏見やイメージから、地域社会から見えにくく、手を差し伸べにくい存在となってしまっています。地域全体で地域の様々な人達を支えられるネットワークを作っていく時に、同じ立場で相互理解を図るプロセスがとても重要です。当事者・経験者と応援者をつなぎ、一緒に活動を展開していくような「新たなつながり・支援のカタチ」が求められています。

### ◆基金事業概要と達成した成果

この事業は、①ひきこもりがちな方への居場所の提供と、状況の把握(特に若者を重点に)②ひきこもりがちな方に対する「応援者」のネットワークづくり③当事者と「応援者」をつなぐ、の3点を事業目標に活動を行いました。

5月15日に第5回居場所イベント「映画上映会『僕のワンダフル・ライフ』」、6月26日に第6回居場所「動物カフェ～小犬とふれあおう!～」、10月3日・10日には連携・協働団体主催イベントとコラボしたかたちで第7回居場所イベント「映画『ワーカーズ 被災地に起つ』を観に行こう!」、12月22日には第8回居場所イベント「ゲームカフェ ～みんなでゲーム実況にチャレンジ!?～」を開催しました。3月6日には、割田大悟氏(ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜)をお招きし、学習会「一人のひきこもり経験者として、当事者経験者の方や皆様にお話したいこと」を開催しました。割田氏からは現在ひきこもり状態や過去にひきこもりを経験された方に向けて伝えたいことやメッセージを中心にお話しいただきました。

この事業を通じて改めて気づかされたことは、ソーシャルワークの大切さです。ソーシャルワークは、高齢者、子ども、障害のある方を含む、多様な人々のウェルビーイング(より良い状態、幸せ)を直接的、間接的、側面的にサポートしていく活動です。ソーシャルワークの基本は、その現場で相手(他者)の話を聴くことです。



コロナ禍だからこそその難しさもありましたが、だからこそ基本に立ち返り、連携協働団体の皆さまをはじめとしたメンバーと一緒に、大事なこと、大切なことを1つずつ確認しながら事業を進めていくことができたことは何よりの収穫でした。

### ◆これからの取り組み

この2年間で培った「生きづらさ・ひきこもり支援の地域ネットワーク」を維持・発展させるべく、連携・協働団体メンバーと活動を継続していきます。2ヶ月に1度運営会議を開催し、居場所イベントや学習会などを開催して行く予定です。



団体名 おおた社会福祉士会

会員数 190人

設立 1994年

団体の活動目的  
活動実績

大田区内における社会福祉士としての専門的技能の研鑽、専門職相互の連携を図り、社会福祉に貢献することを目的として活動しています。主な活動は、原則として毎月開催している定例会、区民公開講座です。社会福祉、社会保障に関係する様々なテーマで開催しています。会員に限らず門戸を開き、テーマに関心ある多くの区民、行政機関、専門職の方にご参加いただいております。



# 地域力応援基金への ご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える基金です。

## 1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。基金を活用して実施した事業は区ホームページで公開しております。是非ご覧ください。

## 2 寄付の方法

(寄付される場合には以下の3つの方法があります)

### (1) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

▶ 寄付申込書を下記送付先まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、手数料はかかりません。

### (2) 現金書留で郵送する

▶ 寄付申込書を同封の上、下記送付先まで送付してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

### (3) 直接現金をお持ちいただく

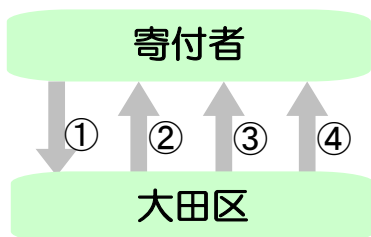
▶ 大田区役所6階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

## 3 寄付申込書の入手方法

寄付をされる場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書が必要な方は、大田区HPからプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。

## 4 寄付の流れ

(※上記2寄付の方法(1)の例)



- ① 寄付申込書の提出 (郵送でも FAX でも構いません)
- ② 納付書の送付 (到着後、金融機関で振込)
- ③ 振込確認後、受領書・礼状を送付いたします。
- ④ 区報掲載 ※希望者のみ (掲載月は不定期です。)







**令和3年度 地域力応援基金助成事業活動報告書**

**発行年月：令和4年6月**

**発行：大田区地域力推進部地域力推進課**

**区民協働・生涯学習担当**

**〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号**

**TEL:03-5744-1204 FAX:03-5744-1518**